令和２年10月30日

保護者様

京都市立大原野小学校
校長　　市川　幸司

令和２年度

京都市立大原野小学校　第一回学校アンケート結果

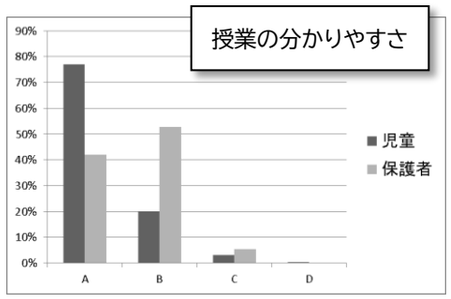
第一回学校アンケートにご協力いただき，ありがとうございました。アンケート結果を分析・検討し，学校運営協議会において評価をいただきました。その結果をお知らせします。さらによりよい大原野の教育を進めていきたいと考えています。今後とも，本校教育にご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

本校では，学校教育目標を「自ら学び未来を創造する子の育成～夢や希望をもって努力し自信をもって学び続ける児童～」とし，「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を柱に全ての教育活動を行っています。この3つの柱の観点から，児童12項目，保護者13項目，教職員15項目のアンケートのうち，いくつかを取り上げて考察しました。

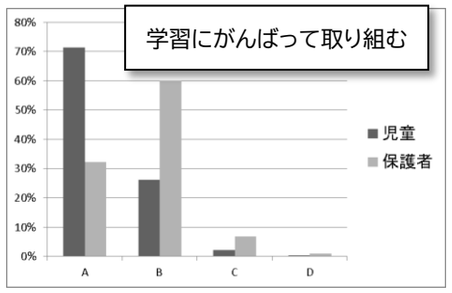
A…そう思う　B…だいたいそう思う　C…あまりそう思わない　D…そう思わない

1. 確かな学力

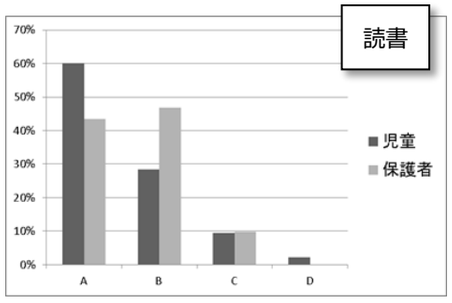
①の項目「授業の分かりやすさ」については，児童は97％，保護者95％がＡとＢを合わせたプラス評価をしています。これは，毎時間の「めあて」「学習問題」を明確にし，児童が考え，「ふりかえり」をする授業が定着してきたからだと考えられます。1時間の授業をパターン化することにより，児童は学習の見通しをもつことができ，「授業のわかりやすさ」につながっていると考えます。さらに，児童がイメージしやすいようにコンピュータ等の ICT 機器を活用したり，具体物を使った操作活動を取り入れたり，ペア学習やグループ活動を取り入れたりなど工夫した成果だと考えます。しかし，高学年になるほどAの割合が減ります。学年が上がるほど学習の難易度が高くなっていき，学習が難しいと感じる児童が増えてくるからと考えます。また，学年に限らず，Ｃ と Ｄ を合わせたマイナス評価をしている児童もいます。全ての児童が「知りたい」「やってみたい」「できるようになりたい」と思う授業の実践をしていくことが必要ととらえ，児童がよくわかったと実感できるよう，複数で学習指導に当たるなど，きめ細かな指導の在り方も考えていきたいと思います。



②の項目「授業や学習にがんばって取り組んでいるか」については98％の児童が Ａ と Ｂ を合わせたプラス評価をしています。しかし，低学年と高学年のAだけを比べてみると，低学年では79％，高学年では64％と，高学年が低くなる傾向にあります。指導者は，自信をもって「がんばっている」と回答できない原因を探ると同時に，授業の展開などを工夫し，一人一人が主体的に学習に取り組むようにしていきたいと思います。そのためにも，学習への意欲付けとして，意欲的な学習態度やできたことを大いに評価すること，学習の中で達成感を味わえる場面を多くもてるようにすることなどが大切と考え，低学年のうちから取り組んでいきたいと思います。

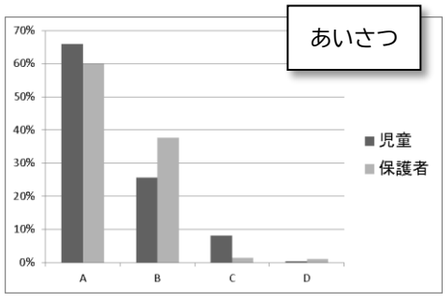


③の項目「本をよく読んでいるか」については，児童のＡとＢを合わせたプラス評価が84％と高いです。これは，校内での読書を促す取組が功を奏していると考えています。毎週の読書の時間や，読書ノートの効果的な活用，6月と11月の読書月間など，児童は読書に親しみ，日頃から学校図書館に通う児童もいます。しかし，ＣやＤと回答した児童も16％います。それらの児童が読書に親しめるよう，学校司書とともに，魅力的な学校図書館づくりや，もっと読書に親しめる取組など考えていきたいと思います。また，家庭でも読書に親しめるよう，保護者の方とも連携を深めていきたいと思います。

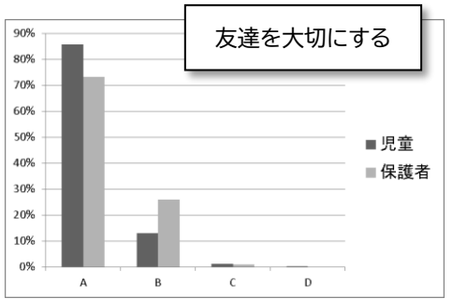


2. 豊かな心

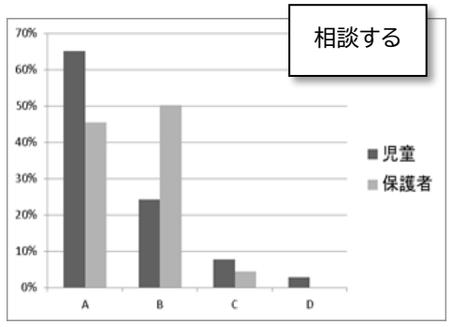
⑤の項目「あいさつ」については保護者の方から約97％の Ａ と Ｂ を合わせたプラス評価がありました。ご家庭でもあいさつの大切さを伝えていただいていることがわかります。また，児童の方も児童会の取組や PTA，地域の取組もあり「自分から進んであいさつをしている」と90％以上がプラス評価しています。しかし，普段の様子に目を向けると，進んで気持ちのよいあいさつができていない児童もいます。今後も「目指すあいさつ」の具体例を示したり，自ら進んであいさつができるよう，取組を続けたりしていきたいと思います。



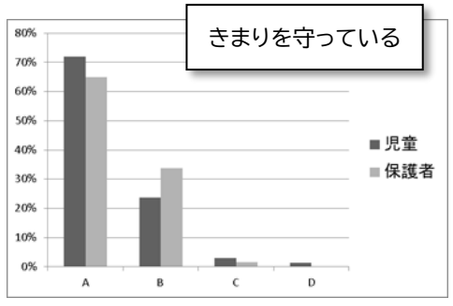
⑥の項目の「友達を大切にする」については児童，保護者とも99％がＡとＢを合わせたプラス評価をしています。学校では，毎月「つながりの日」を設定し，その月の人権テーマに合わせ，学年に応じた内容を学習します。学習のまとめとして書いた「ふりかえりカード」は中校舎1階の「つながりコーナー」に掲示し交流しています。友達の良いところを終わりの会で伝え合ったり，見つけた良さを「きらきらカード」に書いたり，友達を大切にするための取組を積み重ねています。これからも様々な角度から人権意識を高める活動を取り入れていきたいと考えています。



⑧の項目「相談する」については，児童が89％，保護者が96％，ＡとＢを合わせたプラス評価をしています。しかし，11％の児童が「困った事を相談する」事についてＣやＤと回答しています。学校では，困った時に相談できることが大切だと考えています。低学年では日記帳（あのねちょう），4年生以上の学年では「さよならノート」などを利用し，児童の日常の様子や一人一人の思いを知るように努めています。他にも，「いじめアンケート」や「学校生活についてのアンケート」などをもとに，「先生と話そう月間」として，児童一人一人と面談しています。そして何よりも，日常から児童が安心して相談できる雰囲気をつくっていくことが一番大切です。教職員は「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」をこれからも心がけます。



⑨の項目の「きまりを守っている」では，95％以上の児童が Ａ とＢを合わせたプラス評価をしています。しかし，「そう思う」と自信をもって回答したのは，低学年が90％に対して，高学年は54％と，大きな開きがあることが分かりました。これは，決して高学年児童の規範意識が低いのではなく（Bは43％），成長するにしたがって，自身を客観的に厳しく見るようになり，本当はきまりをしっかり守っていても，自分の行動に自信がもてないでいると考えられます。そのような児童がいることを認識した上で，きまりを守ろうとする児童の意識や行動を，教職員や周りの大人が声をかけたり，ほめたりして，児童の規範意識をさらに高めていきたいと考えています。学校では，きまりは一人一人が学校生活を気持ちよく過ごすために大切なことであるということを指導していくと同時に，児童が進んできまりを守っていこう，と思えるような取組を行っています。児童会を中心に，毎月の「がんばろう目標」を決めて，全校で取り組んだり，学習や学級活動の中でルールの大切さを学んだりしています。このよう

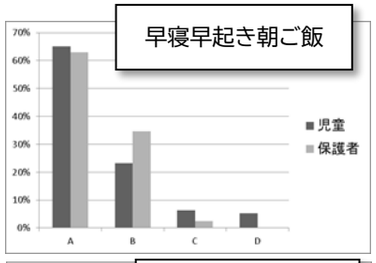


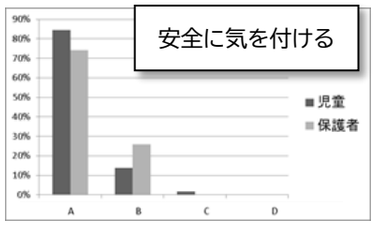
に児童が自ら，よりよい学校生活のために考え，実践することはとても大切だと考えます。

3．健やかな体

⑩の項目「早寝，早起きをし，朝食を食べて登校する」については保護者から95％以上ＡとＢを合わせたプラス評価がありました。しかし，11％の児童がＣとＤを合わせたマイナス評価をしていることが分かりました。学校としても，再度，規則正しい生活習慣の大切さを指導していく必要があると考えています。

⑪の項目「安全に気をつける」でも保護者，児童ともに「そう思う」「大体そう思う」と高いプラス評価の回答がありました。学校でも，毎月の「安全の日」に，安全ノートを活用して，児童が校内・校外で安全に過ごすための学習をしています。特に，コロナ禍で様々な取組が中止になる中，安全面に関しては中止にすることなく，感染防止対策をとりながら，1年生の交通安全教室，2，3年生の自転車教室，4年生の免許証交付自転車教室などを実施しました。また，機会があるごとに，登下校や校内での過ごし方，長期休業など，休み中の過ごし方などについて指導しています。様々な場面・場所で危険を予測し，適切に行動できる力を家庭，地域と連携しながらつけていきたいと思います。





4．「新型コロナウイルス感染拡大防止による学校の取組」についてのアンケートより

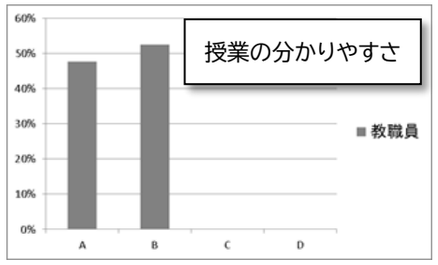
新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業で，児童の生活リズムが乱れてしまわないか，また，運動をする機会が少なくなり，体力が落ちてしまわないかなど心配でしたが，ご家庭の協力で，6月以降の学校生活をスムーズに行うことができました。ありがとうございました。しかし，アンケートの回答から，学習面，健康面への不安をもっておられる保護者の方が多いことが改めて分かりました。学校として，引き続き，密を避けた学習形態や消毒液での手指の消毒，こまめな手洗い，教室の常時換気，校舎内の消毒などに取り組んでいきます。また，学習面においては，授業時数の確保のため，7 時間授業を週2～3日取り組むことや，1単位時間が40分になっても，「めあて」「学習問題」から「ふりかえり」までの学習の流れを変えることなく，授業を展開すること，放課後などを活用して補充学習をすることなど，児童の学習の力を保障していきます。

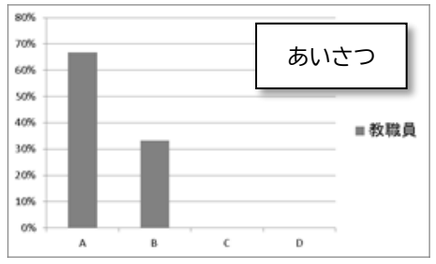
5．教職員アンケートより

教職員も15項目について自己評価しました。多くの項目で教職員はAとBを合わせたプラス評価をしています。子どもを理解し，温かく支え，子どもの命を守りきることを合言葉に，それぞれの立場で教育活動に取り組んでいます。今後も，アンケートから見えてくる児童の実態や保護者のご意見を参考にし，保護者の皆様，地域の皆様と連携・協働した取組を推進します。

◎「確かな学力」について

保護者の方や児童から「授業の分かりやすさ」についてAとBを合わせたプラス評価がありました。教職員は，「基礎・基本の定着を図るための指導方法，形態の工夫を実践している」「『知りたい』『やってみたい』『できるようになりたい』と思うような授業を実践している」のどちらも100％プラス評価しています。しかし，AよりBの方が多い回答となりました。今後も児童が意欲・関心をもって学習に取り組み，学習内容が定着するような実践をしていきます。



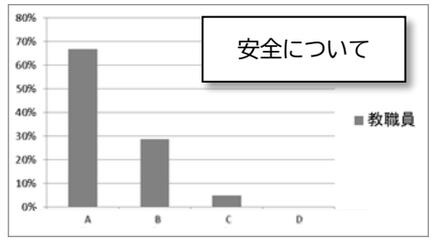


◎「豊かな心」について

「あいさつ」については，保護者・児童・教職員ともに90％以上のプラス評価でした。学校では児童が望ましい人間関係を築くとともに，自らを律し，社会生活を送る上で持つべき規範意識を育てることにも取り組んでいます。「あいさつの大切さを伝える」ことについては，児童会から提案している「大原野3つのきまり」（相手の目を見て大きい声であいさつしよう・そうじは静かにテキパキし，後片付けもしっかりしよう・廊下は走らずに右側通行しよう）などを利用し，今後も様々な機会を通し，粘り強く取組を進めていきます。

◎「健やかな体」について

「安全について」の働きかけは保護者・教職員ともにAとBを合わせたプラス評価がとても高いです。教職員は心と体を大切にする児童の育成を目指し，スポーツを楽しむ機会を作ったり，性に関する指導，薬物乱用防止教室など様々な角度から教育活動を行ったりしています。学校だよりや保健だより，給食だよりなどを通して，今後も「命を大切にする」取組をご家庭や地域に伝えていきます。



学校が目指している児童の成長には，家庭・地域との連携が欠かせません。学校での取組を各種たよりやホームページなどを通して発信していくと同時に，児童・保護者・地域からの様々な声に耳を傾けられているかなどについて，教職員は今後も自らに問い直す機会をもちながら教育活動・学校運営を進めていきます。

6．その他（学校運営協議会でいただいたご意見を載せています）

- 「放課後まなび教室」での児童の様子を見ていると，例年より集中力が増しているように感じる。これは40分授業の成果かもしれない。
- 困っている児童がいたら，みんなが集まって励ましている姿を見かけた。児童の仲間を思う意識が高まっている。
- 読書については，読み聞かせなど，読んでもらうことも大切と考えている。また，読書の取組では，各学年でどんな本がよいのか，学年に応じた本の紹介も必要かと思う。
- 臨時休業期間中，先生に学習の教材など持ってきてもらった。本当にありがたかった。コロナ禍の中，体育学習発表会での児童の元気な姿にホッとした。児童ががんばったことをほめてもらうと，私たちもうれしい。児童の日常の様子や思いを知るための手段として「さよならノート」があるが，大変興味深い。
- 密を避けるという意味合いもあり，放課後まなび教室は3つの教室を使用している。児童は今置かれている状況を認識し，この取組に応えてくれている。今年度，低学年でも放課後まなび教室で自主学習を進めている児童が多い。高学年の姿を見ているのだろうか，いい傾向と思う。
- 体育学習発表会では，高学年を中心に全学年がんばっていてとても感動した。6年生の，リーダーとしての成長がうれしい。
- コロナ禍でいろいろ制限される中，感染対策を十分にとってのケナフ栽培や伝承遊びなどの地域の取組ができることがうれしい。登校時，こちらから集団登校の児童に気持ちの良いあいさつをすると，児童から元気なあいさつが返ってくる。あいさつの定着は，まず大人から取り組んでいくことが大切と思う。
- 「さよならノート」は，児童とつながるいいツールだと思う。朝読書は，児童が読書に親しむきっかけになり大切である。学習に関して，できるだけ児童に寄り添い，わかりやすい授業をこれからもお願いしたい。
- 相撲大会や区民体育祭などがなくなり，さびしいが，来年度は児童の活躍する姿を楽しみにしていきたい。先生達は7時間授業や放課後の補充学習など，よくがんばってくれている。先生達も大変だと思うが，児童への見逃しのない観察をお願いしたい。
- 毎月第2水曜の朝の登校時間に，各地域で徐行運転啓発の取組を行っている。児童の安全のために，引き続きがんばっていきたい。今年度の米作り体験は，例年のようにはできず，どのように進めるべきか悩んだ。PTA，地域，教職員の協力を得て，今後も進めていきたい。
- 「相手の目を見て，大きい声であいさつしよう」というのは，児童だけでなく大人も大切なことだと思う。本校は，大体学年1クラスであり，クラス替えがない。だからこそ，「共助」「協助」の大切さを学んでほしい。